



ITU-TにてIOWN技術仕様の 公的標準策定の取組みを合意

日本電信電話株式会社 研究開発マーケティング本部 研究企画部門 標準化推進室

なが お じろう
長尾 慈郎



2023年12月5日にアラブ首長国連邦ドバイにてITU-T CxO Roundtableが開催された*1。この会議はWTSA*2決議68*3に基づいて開催されているものであり、業界が今後優先して検討すべき課題や、それらの課題に関する標準化活動について今後の方向性や主要な行動分野を示すことを目的としている。今回の開催にあたっては2023年1月に就任された尾上誠蔵TSB局長の強い意向を反映し、産業界有力企業のCEO、CTO級のハイレベル幹部のみに限定する会議となった。

今回のCxO Roundtableでは、

- ・情報通信や接続性
- ・持続可能なデジタルトランスフォーメーション
- ・規制
- ・その他の話題

に関して議論するセッションがそれぞれ設けられた。当社からはCTO (Chief Technology Officer)、CIO (Chief Information Officer)、CDO (Chief Digital Officer) を兼任する川添雄彦代表取締役副社長が「情報通信の接続性」のセッションにてプレゼンテーションを実施した。IOWN*4コンセプトの紹介に続き、主要な3つの技術的優位性（低消費電力、超大容量、超低遅延・確定遅延）を紹介し、IOWN技術を具体的に実現するための国際的なフォーラム団体で

あるIOWN GF (IOWN Global Forum) での技術仕様策定の取組みに触れた上で、IOWNがもたらすサステナブルな世界の実現に向けた国際接続性の担保や、途上国も含めた世界展開に向け、フォーラム団体であるIOWN GFとデジュール標準化団体であるITU-Tとの連携の必要性を強調した。

本提案に対して、会議に参加した世界各国のキャリア、ベンダ、公的機関等のハイレベル幹部からはIOWNがもたらす価値やその重要性について賛意が示された。また、会議の成果文書であるコミュニケ*5にもITU-TとIOWN GFをはじめとするIOWNに関連する各コミュニティとの連携強化の重要性が明記された。加えて、ITU-Tに対し6Gのニーズを満たすトランスポートネットワークの標準開発でリーダーシップを発揮するよう奨励する旨及び6Gで要求される通信機器の配備密度とユビキタス接続の実現には非常に大容量かつ費用対効果の高い光通信が必要になる点を強調する旨も明記された。

今回の成果を踏まえ、IOWN関連技術のなかでもデジュール標準化と親和性の高い国際相互接続に関する技術仕様などについて、ITU-Tにて標準化が進められていくことが期待される。

*1 <https://www.itu.int/en/ITU-T/tsbdir/CxO/Pages/CxO-20231205.aspx>

*2 WTSA: World Telecommunication Standardization Assembly. ITU-Tの最高意思決定機関であり、ITU-Tの加盟国 (Member State) から政府代表者が出席して開催される。ITU-TのStudy Group議長などの上位の役職の選出がされるとともに、決議 (Resolution) と呼ばれる文書が作成、合意され、ITU-Tの規定や活動方針等の改定、決定等がなされる。4年ごとに開催され、今回は2024年10月にニューデリー (インド) で開催予定。

*3 https://www.itu.int/dms_pub/itu-t/opb/res/T-RES-T.68-2016-PDF-E.pdf

*4 IOWN: Innovative Optical and Wireless Networks. IOWN構想の実現・普及に向けては、NTT、インテルコーポレーション、ソニーグループ株式会社の3社が設立したIOWN Global Forum (<https://iowngf.org/>) でフォーラム標準化活動が進められている。

*5 https://www.itu.int/en/ITU-T/tsbdir/cto/Documents/Communique_ITU_CxO_2023.pdf